

ミャンマー（ビルマ）と岡垣⑨

—ミャンマーからの留学生と内浦小との交流—

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

筆者はかつて、内浦小学校で勤務していた。当時、同校に勤務していた平野國臣先生の紹介で、ミャンマーからの留学生（九州工業大学）のミヤツカラヤさん（女性）と交流することになった。平成9（1997）年だった。

本校の職員、児童、PTA会員は4年間にわたり、彼女と交流した。同校ではそれまで、児童会でユニセフや阪神大震災見舞いの募金活動をしていた。

今回の募金はミヤツカラヤさんの話を聞いて、ミャンマーの田舎の小学校では校舎の修理代や文房具も十分でないことが分かった。そこで、児童会やPTAで、ミャンマーへの募金活動をする事になった。以後、募金は4回行われた。1回目の募金は平成9年3月、児童会とPTAで行われ、6万円

と鉛筆50ダースが集まり、ミヤツカラヤさんからミャンマーへ届けられた。ミャンマー中央部のメツテラー市の教育長さんから、感謝状が届いた。

6万円は、ミャンマーでは約300万円に相当するという。

3回目の募金は平成11年2月、児童会の募金とPTAのバザーでの収益金を合わせて、1回目と同様に6万円が集まった。

ミヤツカラヤさんを招いて、体育館で贈呈式を行った。そのことが、西日本新聞で紹介された。記事の要約を紹介する。

「岡垣町内浦小学校で3月6日、ミャンマーの留学生ミヤツカラヤさんを招き、児童会やPTA会員からの募金6万円を贈呈した。募金は、現地（ミャンマー）の小

学校で校舎の修理などに使われるという。

贈呈式後、彼女は6年の教室で、児童25人に、ミャンマーの生活や日本での留学体験を語った。

7年前に来日、九州工業大学で情報工学を学んでいるミヤツカラヤさんは、民族衣装で教壇に立った。

ミャンマーでの信仰の深さなどを語り、日本で初めて雪を見たという話には、児童から驚きの声が上がった。……（以下省略）

この募金がミャンマーに届き、マンダレー県のチャウピューゴン村の村長、校長、PTA会長、先生の4人連名による、ミャンマー語での感謝状が届いた。これをミヤツカラヤさんが日本語に訳したものを、下で紹介する。

感謝状

日付 1999.4.24 (土曜日) 場所 チャウピューゴン村
時間 AM:9時 メッテラー市
マンダレー県

1. 日本国、あなた様から送ってくださった募金をいただきました。私たちの小学校の修復するために、このように思ってもいないお金をいただいて、とても嬉しく思っています。私をはじめ、村長、村民、学生たち皆があなた様を心から感謝しています。言葉では表せません。これからも、このような募金活動を続けることができますよう、そして、皆様のみますますのご発展を心からお祈りいたします。

2. この感謝状を感謝いっぱいを送りいたします。 感謝しつつ、

- ① U Soe Nyein (村長)
- ② U Tin Win (P.T.A長)
- ③ U Maung Maung (校長)
- ④ U Aung San Win (先生)

▶ミャンマーから届いた感謝状(訳)